
第 18 回木曾川上流自然再生検討会 議事要旨

日時：令和 8 年 1 月 26 日（月） 13:30～16:00

場所：木曾川上流河川事務所（木曾川水系ダム統合管理事務所 2 階会議室）

出席者：

藤田 裕一郎	岐阜大学 名誉教授
大塚 之稔	日本野鳥の会 岐阜 顧問
高井 泰	岐阜県昆虫分布研究会 事務局 岐阜県立加茂高等学校
高野 裕行	自然学総合研究所 主任研究員
永山 滋也	長野大学 准教授
森 誠一	岐阜協立大学 教授

【規約の改正について】

事務局から、永山委員の所属等が岐阜大学特任助教から長野大学准教授に変わったことに伴い、別表の委員名簿を更新したことが報告された。

【議事】

(1) 第 17 回自然再生検討会における委員意見について

事務局から、資料-2 を用いて、第 17 回自然再生検討会における委員意見に対する現在の対応状況や今後の対応方針について説明があり、それらについての質疑の結果、内容が了承された。

質疑等の主な内容は以下のとおりである。

- ・洪水時には河岸上の土砂濃度の高いところから堆積していく傾向があるため、盤下げをしたワンドに関しては三次元測量により地形の面的な変化を把握するとよい。
- （事務局）木曾川、揖斐川の面的掘削の実施箇所については、今後面的な地形変化に着目して検討していく。

(2) 報告事項

事務局から、資料-3 を用いて、自然再生計画の進捗と今後の予定が説明され、続いて、ワンド等の水際湿地の再生（木曾川、揖斐川）、緩流域環境の再生（杭瀬川、伊自良川）、コアジサシの繁殖状況（木曾三川）、ワンド等の水際湿地の再生（オオサンショウウオ）、樹林化の防止及び流水環境の確保（南派川）の実施状況やモニタリング結果、実施効果と課題等についての報告があり、それらについての質疑の結果、いずれも内容

が了承された。

質疑等の主な内容は以下のとおりである。

○ワンド等の水際湿地の再生（木曽川・揖斐川）について

- ・揖斐川ではワンド整備を3パターンに分けて実施しようとしているが、木曽川ワンドでの知見は反映されているのか。また、各整備パターンに期待する効果は何か。
- （事務局）木曽川では、底泥浚渫やワンド連結といった比較的小規模な整備から、拡幅、伐開、盤下げなどの大規模な整備までを実施し、いずれにおいてもイタセンパラに一定の効果が確認されている。これらの知見を踏まえ、揖斐川においても盤下げ等の整備を検討している。
- ・イタセンパラは木曽三川の河川特性を示す重要な指標の一つであり、その増減要因を分析することは自然再生の評価に有用である。特に、急増後に急減した要因について検討が必要である。
- ・愛知県が 貴重種情報記載につき取扱注意 周辺で河川状況とイタセンパラの応答を検討しているため、情報交換しながら検討の精度を高めるとよい。
- ・物理場の面的変化と生物応答の関係も、さらに検討するとよい。
- ・個別（箇所）の自然再生だけでなく、木曽三川としての総合的な河川目標の検討が必要である。下流を含むエコネット全体を見据え、氾濫原・流水域・汽水感潮域の3つの環境について一体的に自然再生を進める必要がある。
- ・揖斐川でのワンドの再生・創出と物理場動態の把握・検討を重視して、環境省と連携することでイタセンパラ再導入にもつながる。
- ・工事着工前における二枚貝の移植の経緯を確認したい。
- （事務局）左岸の今年度施工箇所から同施工箇所付近のワンドへ移植を行った。
- ・平成30年にイタセンパラが急増した要因について、環境要因と生物的要因の両面から分析するとよい。
- （事務局）当時は大きな出水がなく、流況や木曽川大堰の開閉状況により稚魚が流下せず、近隣ワンドに残存した可能性があると考えている。
- ・イタセンパラ以外の他の魚種の動向についても分析し、総合的にみていくとよい。
- （事務局）他の魚種についても記録しているので、今後検討していく。
- ・イタセンパラ等の生息環境創出を目的とした掘削は、他の動植物に影響を与える可能性があるため、掘削前後の状態を記録しておくことが生態系の理解には有用である。

○緩流域環境の再生（杭瀬川・伊自良川）について

- ・樹木伐開により、魚類の餌となる落下昆虫が減少する可能性はないか。また、二枚貝類に適した粒径はどの程度か。
- （事務局）落下昆虫を主な餌とする魚種は主に上流域に生息する種であり、杭瀬川では樹木の餌供給機能は限定的と認識している。二枚貝類には粒径の細かい底質が適しており、伊自良川では緩流域再生により適した環境が形成されたと認識している。

-
- ・ミクリ属はナガエミクリのことか。またその分布を確認したい。
 - (事務局) ミクリ属はナガエミクリと同定できなかったものであり、分布状況は改めて確認する。
 - ・伊自良川上流域には、支川の村山川を含め、二枚貝類やタナゴ類の供給源となりうる環境があるが、高速道路 IC 整備に伴う影響が懸念される。継続的な状態の把握が望ましい。
 - (事務局) 自然再生の中ではモニタリング調査は今年度でいったん区切りとしているが、意見を踏まえて経年的に把握しながら今後の方針を検討したい。
 - ・伊自良川の二枚貝類とタナゴ類の再生産について確認したい。
 - ・県も伊自良川の環境に注目しているため、情報収集するとよい。

○コアジサシの繁殖状況 (木曾三川) について

- ・砂州の河床低下により冠水頻度が増し、営巣環境として不適となっていないか。また、気候変動を踏まえ、今後は河床高の再検討が必要ではないか。
- (事務局) 今後の検討課題とする。
- ・水文資料の再確認や三次元測量の活用により、精査を進めるべきである

○ワンド等の水際湿地の再生 (オオサンショウウオ)

- ・過去に生息が確認されていた下流区間の環境が現在も維持されているか、確認や検討が必要である。過去資料と現況を比較し、生息適性を評価してほしい
- (事務局) より下流部については来年度の調査で生息環境の確認を行う予定である。
- ・貴重種情報記載
につき取扱注意 情報交換を行い、保全の助言を得ることが有効である。
- (事務局) 今後、有識者の助言を得ながら生態環境の把握を進める。
- ・繁殖に関連するため、オオサンショウウオの雌雄比についても整理が必要である。
- (事務局) 改めて整理する。

○樹林化の防止及び流水環境の確保 (南派川))

- ・流水の浸入頻度が低いとは、完全に遮断されているのか。
- (事務局) ある程度の浸入はあるが、土砂堆積により頻度が低下していると認識している。

(3) 次年度のモニタリング計画 (案)

事務局から、資料-3 を用いて、次年度のモニタリング計画 (案) についての説明があり、それらについての質疑の結果、内容が了承された。

質疑の主な内容は以下のとおりである。

-
- ・オオサンショウウオの利用状況の調査は、木工沈床設置前後のどちらを対象としているか。
→（事務局）現時点では設置前に調査を行い、設置後も継続して巣穴等の利用状況を調査する予定である。
 - ・コアジサシについては、河道掘削箇所の河床高を把握し、冠水頻度と営巣実績との関係を把握するとよい。
→今後の検討の参考とする。

(4) その他

事務局から、コクチバスの生息状況（揖斐川）、及び、今後のスケジュールについて説明があり、特段の質問もなく、内容が理解、了承された。